

《令和6年度決算と 令和7年度予算》の報告



令和7年度の灘ふれまの総会は、5月25日開催され、6年度の議案全てが可決されました。来年度には、神戸市の方針により、地域福祉センターから地域交流センターと名称が変わり、管理運営に変更が出てきますので、ご注意願います。

6年度の収入は、管理運営費や地域福祉活動費、まちづくり助成金等を合わせて総額は289万4473円ででした。一方支出は、センターの管理運営費や水光熱費、イベントの実施に伴う事業費等の支出で279万8068円ででした。この中には、積立金10万円が含まれていますが、積立金の総額は263万7125円となっております。今後は、積立金が大きく膨らむことの無い様に、灘ふれまの活動をもっと充実させる必要を感じています。

令和6年度収支決算及び令和7年度予算

1. 収入の分				[単位:円]
科目	令和6年度決算額 R6年4月1日～R7年3月31日	令和7年度予算額 R7年4月1日～R8年3月31日	説明	
管理運営費	1,504,800	1,504,800	補助金	
地域福祉活動費	252,000	252,000	〃	
ふれあいのまちづくり助成金	338,000	272,000	補助金	
その他公的補助金・助成金	0	0		
自主財源	799,673	748,153		
内訳				
繰越金	84,951	96,413		
運営協力金	520,700	500,000	センター利用に伴う収入	
事業収入	189,500	150,000	3B体操	
積立金からの繰入	0	0		
その他収入	4,522	1,740	電話・コピー代	
合計	2,894,473	2,776,953		

2. 支出の部				[単位:円]
科目	令和6年度決算額 R6年4月1日～R7年3月31日	令和7年度予算額 R7年4月1日～R8年3月31日	説明	
管理運営費	水光熱費	484,242	490,000	電気・ガス・水道代
	通信・事務費	93,269	100,000	電話・文具・その他
	修繕費	0	10,000	
	備品購入費	0	100,000	
	消耗品費	65,532	100,000	
	その他管理費	1,262,030	1,400,000	センター当番手当
	計	1,905,073	2,200,000	
事業費	グランドゴルフ			
	文化祭			
	クリスマス会			
	餅つき大会			
	広報紙の発行			
	子育てサークル			
	地域福祉活動費			
	計	708,966	447,000	ふれあいのまちづくり活動
予備費	—	59,953		3B体操、総会等会議費
その他公的補助金・助成金	0	0		
公金支出対象外経費	84,021	70,000		
過年度返還金	0	0		
積立金への繰り入れ	100,000	0		
支出額合計	2,798,060	2,776,953		
次年度繰越金	96,413	—		

※令和7年総会資料から編集

3. 積立金	
令和5年度末残高	2,535,826円
6年度繰入額	100,000円
預金利息	1,299円
6年度本会計への繰出し	0円
6年度末残高	2,637,125円

監査の結果、本書記載のとおりであることを認めます
 令和25年4月29日
 監事 小畑幸一 印影省略
 監事 上田 啓 印影省略

編集後記

長かった夏も過ぎようやく涼しい季節を迎えたところ、早くも晩秋。日々月日の流れを強く感じるこの頃です。47号のトップ記事はいよいよ来年度4月に発足する灘地域交流センターについて取り上げました。様々なご意見をいただきながら、不易流行の理をもっと更に良い施設となるよう、創り上げていきたいと強く念じています。2面で取り上げた、社会を明るくする運動作文では、灘っ子の素晴らしい志を感じていただけたら編集者冥利に尽きます。

私事ですが、本協議会に加わり2年目の秋を迎えましたが、なかなか地域活動に貢献できず歯がゆい思いをしておりました。ところが寛容なる諸先輩方の後押しで、本号編集後記の大役を任せていただいたことに感謝申し上げます。
 〈高森〉

【今年度の主な行事予定】

- ◆ 十二月二十一日(日) クリスマス会
十時〜灘地域福祉センター
 - ◆ 二月十一日(祝・水) 餅つき大会
十時〜灘地域福祉センター
- ※予定は変更されることがあります。

令和： 7年11月15日 第47号
 発行： 灘ふれあいのまちづくり協議会
 委員長 浪平 博司
 編集： 広報部会
 題字： 橘 香陽

《地域福祉センターから 地域交流センターへ》

委員長 浪平 博司



灘地域福祉センター

平成十二年に灘区内十三か所目の地域福祉センターとして開所した「灘地域福祉センター」は、来年四月に「灘地域交流センター」と名称を変え、運営内容が変わります。変更の概要は以下のとおり。

一、休館日が日曜日から金曜日に変わります。(日曜日も普通に使えます。)

二、利用時間と利用料金が変わります。(下記の利用料金表のとおりです。)

三、利用料金の免除は神戸市の判断によりします。

四、灘地域交流センターは、九時から四時まで管理者が常駐します。(夜間は無人管理となります。)

この変更は、地域福祉センターをこれまで以上に利用しやすい施設にすることで、地域で活動する様々な団体の

利用を促し、地域の活性化を図ることを目的としています。

私たちの灘地域福祉センターも、来年四月から「灘地域交流センター」と名称を変えますが、運営はこれまでどおり、灘ふれあいのまちづくり協議会(以下「灘ふれまち」)が当たります。灘ふれまちでは、新たな運営を行うにあたり、開館日・利用時間、利用料金を以下の様に予定していますが、利用料金は現在の運営協力金と出来るだけ変わらない様に配慮しています。また閉館日を、現在の利用状況を考慮し、金曜日としています。今回の新制度では、土曜日・日曜日の利用を可能とすることがポイントで、この点では、現役世代の積極的な利用が待たれます。

(1) 利用料金(案)(月曜日～木曜日・土曜日・日曜日)

利用施設	利用料金				
	午前 (9時-12時)	午後 (13時-16時)	午前・午後 (9時-16時)	夜間(17時～21時 の内2時間毎)	時間外使用 (時間単位)
地域活動コーナー	2,000	2,000	4,000	3,000	1,000
調理室	1,000	1,000	2,000	2,000	200
活動コーナー+調理室	2,000	2,000	4,000	3,000	1,000
多目的室(洋室)	1,500	1,500	3,000	2,000	500

(2) 利用料金(案)(金曜日、祝日)

利用施設	利用料金				
	午前 (9時-12時)	午後 (13時-16時)	午前・午後 (9時-16時)	夜間(17時～21時 の内2時間毎)	時間外使用 (時間単位)
地域活動コーナー	3,000	3,000	6,000	3,000	1,000
調理室	1,000	1,000	2,000	2,000	300
活動コーナー+調理室	3,000	3,000	6,000	3,000	1,000
多目的室(洋室)	2,000	2,000	4,000	2,000	700

《多様な表現がもつ力》

烏帽子中学校三年 松本 莉菜



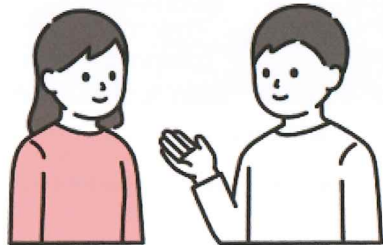
「なんて言えば、伝えればいいのだろう。」私はよくこんなことを思う。例えば友達や親との言い争い、自分の意見を発表するときなど。自分の頭の中には思っていることがあるのに、うまく言葉にできない。そんなとき道徳の授業で、ある番組を見た。「ヤバイ・エグいは危険」これは、番組の題名の一部だ。番組の内容は闇バイトや校内暴力の背景にあったのはヤバイなどなどの省略した言葉の多用なのではないかというものだった。これらの言葉はもともとマイナスなイメージのときに使われていた言葉だ。だが今では、うれしいや楽しいなどの良い意味から、悲しいやつらいなどの悪い意味まで幅広く使われている。そのため、この二つの言葉だけで話に反応することができ、今まで使われていた多種多様な感情を表す言葉を使う機会が減ったのだ。これはよいことではない。どんな話にも同じ言葉で反応できる。そうなれば、何を思っていたとしても一種の言葉で完結するのだ。それを続けているうちに本当の気持ちを言語化する力は確実に衰える。そんな人が

増え、話しても自分の気持ちは分かってもうえないと暴力をふるうようになったり、犯罪に対しても何も思わなくなり手を染めてしまったりするのだ。

授業を終えた後、今私は途中段階にいるのではないかと感じ、怖くなった。話し合いでいつも話を聞く側に回ってしまうのは、ただ言語化できない自分から逃げているだけではないかと思った。この状況を変えるべきだと強く感じ、次の二つの取組を考えた。

一つ目は、たくさんの言葉を知ることだ。そのために本を読んだり、知らない言葉を調べたりするなどの方法がある。うれしいという一つの感情でもそれを表現する言葉は数えきれないほどある。そのうちの一つでも新しい言葉を知ること、自分の頭の中にある言葉の引き出しを増やし、より自分の考えていることに近い言葉を組み合わせることができ。

二つ目は、一つ一つの会話を大切にすることだ。たわいもない会話でもヤバイなどの言葉を使わないで話すことに難しさを感じる人もいるのではないか。会話の中には意見や感想、反応やあいづちなどたくさんの要素が含まれている。この要素を一つ目の取組で知った言葉



たちを使って自分の言葉で伝えられるのが大切になってくる。二つ目の取組を続けることで、自然と言語化する力をつけることができると思う。

この二つの取組は自分だけでなく話している相手にも良い影響が得られる。私が感じる「なんて言えば」を同じように悩んでいる人がいるのではないか。私が言葉や会話を大切にするので、同じように悩んでいる人の本当の気持ちを引き出せるきっかけになるかもしれない。

この取り組みで私と同じ年代の子の犯罪や非行が全でなくすのは難しいと思う。だが、取組を続けることで、自分の気持ちは誰にもわかってくれないと暴力をふるってしまいう人や、犯罪に対して何も思わない人がすこしでも減り、ほんのちよつと楽に生きていけると私は確信している。私の周りにいる人、私と同じように悩んでいる人が加害者にならず、この小さな取り組みを広めていければ、必ず大きな成果になると思う。

社会を明るくする運動“作文コンテスト”に灘区から337名の中学生が参加しています。松本さんの作文は、その内容を読んだ広報部員全員が、広報誌で紹介したいと強く思った作品です。聞きなれないと思っていた言葉が、いつの間にかメディア等を通じて広まり、当たり前のように使われることに警鐘を鳴らす内容と感じました。

《グラントゴルフ大会に参加して》

下河原通 大谷 一郎



秋分がすぎ、秋の気配を感じられるのではと思われましたが、当日は快晴に恵まれ（暑かった！）小学生（四年生以上）から年長者（八十歳代）までの八チーム、四十八名が、チーム優勝とホールインワン賞を目指して競い合いました。ホールポストを狙い、ナイスショットをする人、力を入れすぎOBにしている人、クラブが振り抜けずにショートする人、ホールインワンする人（一人の小学生が二度も達成！）など、一挙手一動に大きな歓声をあげて楽しんでいました。

私もこの大会に参

加させていただき、平生から殆ど面識のなかった人、子ども達、年齢差のある人とチームを組み、ラウンドしているうちに打ち解けて和やかな雰囲気



騒を忘れ楽しいひとときをすごすことができました。実行委員長、スタッフの皆様方ご苦労さまでした。ありがとうございました。



《書道体験ワークショップ》

事業交流部会長 三上 厚子

書道体験ワークショップも今年で三回目を迎えました。九月六日（土）午後一時から灘地域福祉センターで書道体験ワークショップを開催いたしました。神戸松蔭大学書道部の部員さん達六人が、開催一時間前からいらつしやり、用



意をして子どもたちが来るのを待ってくれておりました。今年は十六人と言われたのですが、無理をお願いして二十人にしていただきました。結果、子ども達十人と保護者、大人十人と大勢の参加で賑わっていました。そして、来年の干支「馬」を制作。かわいいお馬さん、カッコイイお馬さん、優しいお馬さんなど、墨だけでなく様々な色を使いながら、自分だけのオリジナル溢れる素敵なカレンダーができあがりました。毎回人気の書道体験ワークショップです。書道部の皆様の優しく、丁寧に指導して下さい

っているのを観てはほえましく思うワークショップでした。

